- 現在の景気:県内景気は、全体としてはコロナ禍による落ち込みからの持ち直しの動きが続いているが、対面サービス消費が足踏みするなど、一部で弱さがみられる。企業の動きをみると、製造業では、世界貿易回復などに支えられた改善の動きが続いている。非製造業では、建設関連で底堅い動きが続いているほか、自動車販売なども上向いているが、外食・娯楽・宿泊など対面サービスでは弱い動きとなっている。これまでの県内景気の牽引要因、すなわち、①建設や食品製造業などの企業業績堅調、②交通インフラ整備関連などの豊富な官民プロジェクト、③災害復旧・復興工事需要、などに大きな変化はない。先行きは回復軌道を辿るとみられるが、変異種の感染増加など新型コロナウイルス感染症の終息時期がなお見通せないことから、依然として不透明感が強い。
- 3 か月程度の見通し: まん延防止等重点措置の適用などで、非製造業の一部で弱い動きとなるが、製造業では持ち直しが続く見込みであり、業種間のバラツキを伴いつつ、全体として回復基調を維持する。
- 個人消費: ①一進一退。②3月の県内百貨店(存続店ベース)の売上は、前年同月比23.3%増と5か月ぶりに前年を上回った。気温の上昇などから来店客数に持ち直しの動きもみられたが、コロナ禍の影響がなかった前々年との比較では15.9%減となった。4月は、まん延防止等重点措置の適用を受けて営業時間を短縮している。3月の自動車販売台数は同0.4%増で、4か月連続で前年を上回った。一般乗用車(同8.2%減)は減少したが、軽乗用車(同11.0%増)は増加した。
- 住宅建築: ①増加基調。②3月の新設住宅着工戸数は、前年同月比7.2%増加し、2か月ぶりに前年を上回った。 持家(同10.0%増)、分譲(同6.5%増)、貸家(同5.6%増)ともに増加した。
- 設備投資: ①減少。②国土交通省の「建設着工統計」(非居住用)によると、3月の工事床面積(年度累計) は前年度比 1.1%減少し、工事予定額も同 2.9%減少した。千葉経済センターによる県内企業 214 社アンケー ト調査(4月実施)では、20年度の設備投資実績(全産業)は期初計画比 8.4%下方修正され、19年度実績 額を 26.4%下回った。21年度の期初計画は、20年度実績額を 13.3%下回っている。
- 公共工事: ①増加。②3月の県内公共工事請負額(年度累計)は、前年度比 6.2%増加した。県(同 9.2%減)、独立行政法人等(同 10.3%減)は減少したが、国(同 34.0%増)、市町村(同 12.9%増)は前年を上回った。
- 輸出: ①増加。②3月の成田、千葉、木更津3港合計通関輸出額は、前年同月比17.5%増と2か月ぶりに増加した。成田空港では、台湾向けの科学光学機器(同30.1%増)や中国向けの映像記録・再生機器(同142.6%増)などの増加により、同21.4%増と2か月ぶりに前年を上回った。千葉港は、石油製品(同40.5%減)などの減少により、同19.9%減と11か月連続で前年割れとなった。木更津港は、鉄鋼(同18.0%減)などの減少により、同11.0%減と2か月ぶりに前年を下回った。
- 生産活動: ①一進一退。②2月の県鉱工業生産指数(季調済)は、91.0(前月比 5.4%低下)と 3 か月ぶりに低下した。鉄鋼業(同 0.4%上昇)や金属製品工業(同 2.7%上昇)などは改善したが、化学工業(同 11.8%低下)や食料品工業(同 6.1%低下)は低下した。
- **観光**: ①一進一退。②GW は、県境を越えた移動の動きから、潮干狩り場やアウトレット施設など一部のエリアでは賑わいもみられたが、依然、外出自粛の呼びかけが続くなか、各施設では営業時間の短縮や入場者数の制限を余儀なくされている。
- **雇用情勢**: ①横ばい。②3月の有効求人倍率(季調値)は、前月比 0.01 ポイント低下の 0.83 倍と 2 か月連続で小幅低下した。有効求職者数(同 1.8%増)の伸びが有効求人数(同 1.1%増)を上回った。

【トピックス】

- ・千葉市を皮切りに、県内における新型コロナウイルスの高齢者向けワクチン接種がスタートした(12日)。
- ・熊谷新知事が知事として初めて国土交通省を訪問。国土交通大臣にアクアラインの普通車通行料金の維持(800円)を求めた(13日)。20日には就任後初の議会となる臨時県議会に臨み、開かれた県政運営に取り組むなど所信表明を行った。
- ・新型コロナウイルスの感染再拡大を受け、「まん延防止等重点措置」が船橋市や市川市の北西部の 5 市に適用された(20日)。25 日に東京都に緊急事態宣言が発令されると、都民の流入防止などの観点から千葉市など7市が追加された(28日)。